

第2回 見附市立学校配置等検討委員会 会議録

日 時：令和6年6月27日(木) 午後6時30分

会 場：見附市役所 大会議室

出席委員：16人

遠藤委員、保科委員、坂田委員、鈴木委員、梅本委員、井上委員、大橋委員、高井委員、目黒委員、武石委員、岡山委員、後藤委員、今井委員、小山委員、小林委員、小尾委員

欠席委員：2人

山田委員、三本委員

事務局：渡邊教育長、近藤教育部長兼教育総務課長、佐藤学校教育課長

(事務局)

それでは、プログラムを進めてまいります。

本日は委員の皆様への激励を兼ね、稲田市長にお越しいただいております。委員会開催に先立ちまして、市の取り組みなどについて市長からご講演いただきます。

それでは、よろしくお願いいたします。

【 市長講演 午後6時30分～7時03分 】

(事務局)

稲田市長、ありがとうございました。市長は公務のためここで退席となります。皆さま、今一度市長に拍手をお願いします。

【 市長退席 】

【 午後7時03分 第2回見附市立学校配置等検討委員会 開会 】

(事務局)

お待たせいたしました。それではただいまより、第2回見附市立学校配置等検討委員会を開会いたします。次第に沿って進めてまいります。

次第3 開会にあたりまして、見附市教育委員会教育長の渡邊茂夫よりご挨拶申し上げます。

(渡邊教育長)

皆さんこんばんは。教育長の渡邊茂夫でございます。

大変ご多用の中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。本日はまた、どうぞよろしくお願いいたします。

前回第1回の検討委員会では、少子化が進んできた現状と今後もさらに進行していくことが見込まれる中で、学校における児童生徒数の減少とそれに伴う通常の学級数減少、そして教職員数の減少の見通しについてお示しいたしました。その上で、学校の小規模化が進行するとどのような課題が想定されるのか等について、資料でご覧いただいたところでございます。

また、学校施設の老朽化、それに伴う課題等もお伝えいたしました。まずは学校配置等巡る課題等を中心に、1回目では現状あるいは今後の今後への認識を深めていただき、皆様方からご質問やご意見を中心にお話をさせていただいたところでございます。

その一方で、これまでも少子化が進行してきた、そしてそれに伴う課題も見えてきていた、そんな中において見附市としてどんなことに取り組んできたのか、その様々な取り組みについてこの委員会としても理解しておくべきではないか、そういった貴重なご意見もいただいたところでございます。

さて、本日ここまでに2つの内容について実施させていただいたところでございます。1つは学校視察でございます。全員の皆様ということではなかったわけですが、見附小学校、見附第二小学校、西中学校の3校を視察していただき、実際の学校の様子、児童生徒の様子をご覧いただいたところでございます。

もう1つは、今ほどの市長のプレゼンです。様々な市の取り組みを含めまして、様々な場において、今後の学校のあり方等について市民の皆様の声をお聞きしてきた稲田市長のこの検討委員会への思い、そして期待をお聞きいただいたことと思っております。

そしてこれから、これらを受けて第2回の検討委員会ということになります。まずは事務局より、これまでの見附市において人口減少や少子化等の問題が進んできたわけでありまして、その中で市はどんな取り組みをしてきたのか、そのことについてお伝えしたいと思っております。

また、見附市外において少子化の進行への対応も含めて、児童生徒にとってより充実した学びの場を作っていくために、どのような取り組みが行われてきたのか、これらについても例として示させていただきたいと思っております。

これらを踏まえながら、見附市の子どもたちのためのよりよい学校教育の場づくりに向けて議論を進めていただきたいと願っております。

議論にあたりましては、第1回の検討委員会の席で皆様にお伝えしたことの繰り返しになりますが、平成の大合併におきまして、自律の道を選択した見附市が将来にわたって持続可能なまちであり続けるために、見附市の未来を託す子どもたちにはどんな力をつけていくことが必要で、それをより着実に実現できる学校はどのような学校なのか、このことをぜひ大事にお考えいただければありがたいと思っております。

委員の皆様には、それぞれにお住まいの地域、あるいはお子様を通わせられている学校というようなお立場もあるかと思っております。しかし、コンパクトシティが大きな強

みである見附市でありますので、小学校と中学校それぞれにつきまして、市全体としてどのような配置等を目指していくべきなのかについて、何よりも子どもたちのことを大事に考えていただきながら、全体から考えられる配置等について大胆に発想しながら、ご意見をいただければありがたいと思っているところでございます。

なおその際に、小学校と中学校では子どもたちの発達段階に違いがありますので、当然目指すべき学校の姿にも違いが出てくるのかなというふうに思っているところもでございます。区別をしつつも、でもしっかりと関連付けながら議論を進めていただければありがたいと思っております。

これからの見附市立学校配置等検討委員会が有意義な議論の場になりますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

教育長ありがとうございました。

それでは、次第4 議事に移ります。

本日の委員会は、委員全18名のうち、ただいま16名のご出席をいただき、過半数の出席に達しておりますので、委員会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは議事に入ります。

設置要綱第6条第1項の規定により、ここからの議事進行は遠藤委員長にお引き受けいただきます。遠藤委員長、よろしく願いいたします。

(委員長)

それでは皆さん、よろしく願いいたします。議事に入ります前に、それぞれの机の上に第2回見附市立学校配置等検討委員会追加資料があるかと思えます。これについて事務局の方でまず説明をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

(事務局)

それではお手元にあります第2回検討委員会の追加資料の方をご覧ください。

資料の1ページをお願いします。この資料は第1回学校配置等検討委員会での質問事項等についての補足説明になります。

まず、(1)新潟県の小・中学校の状況についてです。前回の委員会で、新潟県の小・中学校の状況について、県と見附市の状況を比較して説明させていただきました。その際に、市町村合併をしなかった自治体や見附市と同規模の自治体との比較を教えてくださいという質問がありましたので、もう少し詳しい表を作成させていただきました。

1ページの下の表をご覧ください。県内20市と町村に区別した比較表になります。

左に丸印がついている市が合併をしなかった市で、見附市以外では小千谷市と加茂

市になります。同規模の自治体は、下線の引いてある小千谷市、糸魚川市、阿賀野市、魚沼市になります。平成 12 年度から令和 4 年度までに統廃合がなかった市は小学校で 2 市、中学校では 9 市になります。なお、燕市では令和 6 年度、今年度になりますが、松長小学校が統廃合したため、小学校で統廃合が行われていないのは見附市だけという状況であります。中学校で統合が進んでいないのは通学時間の問題や、旧市町村単位で中学校がなくなることへの住民心理が働いているのではないかと推察しております。

通学時間については、各市の面積を参考までに見ていただければと思います。まず、表の方では、面積㎏というところになります。見附市が 20 市の中で一番狭い面積になっております。2 番目に狭い燕市でも見附市の 1.4 倍程度あるというのがこの表でわかるかと思えます。

2 ページをお願いします。(2) 光熱費について、前回の委員会で、小規模の複式学級のある学校の光熱費について質問をいただいた際に、そんなに大きく変わらないが、大きい学校の方が財政的に有利であるというふうに説明させていただきました。参考までに、人数の多い小中学校を比較した表を作成いたしました。

人数の多い小学校は面積も大きいですので、金額的には大きくなっております。複式学級がある学校は学級数が少ないので、学級当たりの費用は多くなりますが、複式学級がない場合で計算しますと、どの学校でも概ね 1 学級当たり小学校で 50～60 万円程度、中学校で 70～80 万円程度の費用がかかっております。

次に (3) 美里町の学区区についてです。前回の委員会で美里町のウエルネスタウンの学区区について質問をいただきました。それで美里町周辺の小学校区の地図をご用意いたしました。オレンジ色の線が学区区の境界線になります。前回説明させていただいた通り、美里町については、新潟小学校区で見附中学区区になります。

3 ページをお願いします。(4) 子どもたちの声や先生の声、保育園・幼稚園の保護者の方たちの声について、前回の委員会で子どもたちの声や先生の声、保育園・幼稚園の方たちの声について聞いてみたらどうかという意見をいただきました。

令和 5 年 4 月に施行された子ども基本法では、第 11 条において子ども施策の策定、実施、評価にあたっては、子どもや若者、子育て当事者の意見を反映させるために必要な措置を講ずることが国および地方公共団体に義務付けられております。

見附市においては、令和 5 年に実施した第 4 回タウンミーティングで、市内小中学生を対象に、「5 年後 10 年後の見附市の学校を考えてみよう」をテーマに様々な意見をいただきました。タウンミーティング報告書をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。その方は 22 ページをご覧ください。小中学生の子どもたちから「どんな学校に行きたいか」をテーマに、曼荼羅シートをうめる形で様々な意見をいただきました。ちなみに実物を入口の方に掲示させていただいております。ぜひお帰りの際にご覧いただければと思います。子どもたちの柔軟な考えに触れてみていただければと思いま

す。

また、市では様々なテーマでふれあい懇談会を実施しており、保育園・幼稚園の保護者の方や学校の教員の方から学校や教育に関するいろいろな意見等をお聞きしております。詳細については、4ページ以降の一覧表をご覧ください。以上になります。

(委員長)

ありがとうございました。第1回委員会での質問事項を受けての補足と、それに対して調べて回答をいただきました。皆さんの方で確認や質問等がございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。はい。委員お願いします。

(委員)

今ほどご説明いただいた資料の中の、子どもたちや先生方の声の関係で発言させていただきたいと思います。

急なのでまだ頭が整理されてないのですが、私が前回申し上げたときのイメージとしては、ここにあるタウンミーティングの結果も非常に大事なものがたくさん書かれていると思うのですが、今回の委員会が立ち上がったように、もうピンポイント的に規模のことや学校配置のことがテーマになっていると思うのです。そのことについて、今日も回らせていただきましたけれど、まさに現場で格闘していらっしゃる先生方の生の声とか、それから大規模、中規模、小規模を問題にするならば、特に中学校の1年生に焦点を当ててみては。どうしてかと言いますと、そこの方は小さい小学校からの方も大きい小学校の方もいらっしゃるの、それぞれお互いに意見交換しているかもしれませんし、とにかく大きいところの子どもさん、小さいところの子どもさんは、小学校の生活を見てどう思ったのか、その辺のことが将来、今後規模を検討するときの大事な要素になってくるのではないかという感じがしたので、お話をさせていただいたものです。

(委員長)

はい。事務局の方でこれについての回答はありますか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。学校の先生、実際に学校現場にいられる先生の生の意見や、実際に小学校から中学校に上がったときの1年生の声を聞いてみてはどうかということだったかと思います。

学校の先生方、教員の方に言わせていただければ、やはり自分の職場での指導に全力を尽くすというのが先生の仕事ですので、大きい小さいに対しての直接どうこうと

いうのではないのかなというふうには考えております。

実際に1年生が学校に上がった際に受けるイメージやそれぞれの思いというのはいろいろあろうかと思えます。それについて実際に聞いてみるというのも一つの手法とすべきかどうかというのは、また今後、この委員会の中で検討いただければいいかなという感じで今は考えております。

(委員長)

委員、いかがでしょうか。

(委員)

このことに長くこだわるつもりはありませんが、さすがに市内の先生には250人くらいの方がいらっしゃると思います。事務職の方も合わせれば300人近くになるかと思えます。非常に様々な意見をお持ちの方がいらっしゃると思いますので、もちろんそれを1つ2つに集約できるかどうかはわかりませんが、先生が心の中で本当はこの方がいいのだけれどもなとか、そういった生の声というのが私は大事ではないかなというふうに思っています。これ以上これにこだわりませんので次に進めていただいて結構です。

(委員長)

はい。ありがとうございました。今後の全体協議あるいはその他の協議事項の中で今のご意見を、ぜひまた反映させていただければありがたいなと思っております。よろしくお願いします。

それでは、本協議の方に入っていきたいと思えます。

まず、前回5月31日の第1回の検討委員会的时候には、参加者の皆さんからそれぞれお声を出していただき本当にありがとうございました。

私たちのこの会は、諮問理由に関わって、その諮問にどう回答していくかということについて、とりあえず見通しを持つことが大事であり、そのための本日の協議と受け止めております。

前回はそうだったのですが、そのためにこそ見附市がこれまでの学校の取組で、成果を生み出してきた、委員の言葉を借りれば、先生たちの頑張りをはじめその良さというものを、どう認識し検討の場にかすかを私達の立場として探っていく必要があることを示唆されたと思えます。それを受け、特に子どもたちを取り巻く状況は本当に課題山積です。見附市の対応と課題についても、改めて認識を深める必要があるというふうに捉えております。

本日、この第2回の開会に先立ちまして、学校視察を行わせていただきました。見附小学校、見附第二小学校、西中学校の3校を訪問させていただきました。ご多用の

中、受け入れていただいた学校に感謝申し上げたいと思います。また、そのときの参加委員の感想はもとより、今日ご多用の中、激励をいただきました見附の稲田市長様のお話を受け、本日も皆さんと意見交換をしながら、今後の方向性を見つける入口をまずは探っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは今日の議事に協議入っていきたいと思うのですが、まず市の取組について説明をいただきたいと思います。事務局よろしく願いいたします。

(事務局)

これから少しお時間をいただき、見附市と各学校が大切にしてきた教育、そして特色ある学校の事例についてお話させていただきたいと思います。

お手元の資料も併せてご覧いただければと思います。

見附市は子ども、子育てをど真ん中におき、まちづくりの理念「住みたい、行きたい、帰りたい、優しい絆のまち みつけ」、「スマートウエルネスみつけ」に基づき、教育大綱において目指したい子どもの姿として、「ふるさと見附を愛する子ども」、「世に役立つことを喜びとする子ども」を掲げています。

見附市教育委員会は、この基本理念の具現を図るため、0歳から18歳までの一貫した支援と地域の人材と資源を活用した教育の充実を柱とした「共創郷育」に取り組んでいます。

0歳から18歳までの一貫した支援として、その成長を健康、食、自立、社会性の育成などの観点から捉え、学校、園、保護者、地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携協力し、子どもたちの心柱、人間力を育てるための切れ目ない支援を行います。

今日は主な施策として「よつば運動」、「みつけ子育て教育の日」、「スクールアカウンタビリティ in みつけ」などを説明します。また、学校、保護者、地域の大人が総がかりで子どもの育ちに関わり教育の質の向上を図るとともに、学校と地域が元気になるサイクルを創出する施策として、「みつけコミュニティスクール」の推進、「わくわく体験塾」の推進、「みつけわくわくアクションプラン」などを説明いたします。

よつば運動で取り組む挨拶は、絆の礎であり社会生活の基本、人との繋がりをつくり出します。

読書は、深く考える力や物事を多面的に見る力、想像力を養います。

花と緑は、命のバトンを繋ぐ活動で優しい気持ち、感謝する気持ちを育てます。

お手伝いは、責任感や忍耐力を養い、人の役に立つ喜びが自己有用感を育みます。

よつば運動は、園、学校の取り組みはもとより、保護者、地域を巻き込んだ取り組みとして進めることで、子どもが社会に出たとき、力強く生きていくための重要な力を育むことが期待されます。

見附市では県内の他市に先駆け、平成25年より毎年11月第3日曜日を「子育て教育の日」と定めています。子育て教育の日を含む前後2週間を「みつけ子育て教育週

間」として、よつば運動を保育園、学校から積極的に働きかけるなど、家庭、地域などがそれぞれの役割に応じて、意識的に行動する期間としています。

みつけ子育て教育の日には、オープンスクールやスクールアカウンタビリティなどを通して、見附市の教育活動、各学校の特色ある活動を紹介するとともに、家庭、地域、学校、園、教育行政が一緒に見附の子どもたちの育ちについて考え合う機会となっています。

見附市では共創郷育の推進による地域とともにある学校づくり、学校運営協議会を設置し、市内全ての学校がコミュニティスクールの制度を導入しています。このことで、学校、保護者、地域の大人が総がかりで子どもを育てることで、学校と地域がともに元気になるサイクルを創出しています。最近では中学生がコミュニティのイベントにボランティアとして参加したり、地域課題の解決に協力したりするなど、積極的な関わりが見られます。

また、各学校では地域との連携が欠かせない取組を中心に担う「地域学校協働本部」を設置して、学習支援、読み聞かせ、花や公園づくり、登下校の見守りなどの連携協力をいただき、教育活動の充実を図っています。

「わくわく体験塾」は、市民総がかりで夏休み中の子どもたちに多様な体験活動を提供する見附オリジナルの取組です。保護者からも高い評価を得ています。学校、学年、学級の枠を超えた異年齢交流として、互いに協力し、相手を思いやる心を育てるとともに、わくわくドキドキする感動体験を得て、いろいろな事情への興味関心を広め、学ぶことの楽しさ、意欲を高めることを目的としています。昨年よりアントレプレナーシップ教育の一環として、市内の企業からも協力をいただいております。

わくわくみつけアクションプランは、子どもたちの生きる力と学ぶ意欲を引き出すため学校が地域との連携と創意工夫により、特色ある学校作りを支援するための事業です。

各校の校長裁量事業で、表中の(1)から(7)を満たす教育活動の中から、各校で特色ある活動に取り組んでおります。米作り体験、仕事体験、コミュニティとの連携、フラワーロードづくりなど様々な活動に取り組んでおります。

見附市では中越大地震や 7.13 水害の経験、教訓をいかして防災教育の充実を進めております。これまで、学校、地域、行政、NPO 等が総がかりで実施する地域に根ざした防災教育を提案、実践してきました。その成果とノウハウをもとに、各校で計画的な防災スクールに取り組んでいます。中学生においては防災タイムラインの作成を通して、防災時の適切な行動について学んでいます。また、中学生が市の総合防災訓練に関わることも大きな特徴です。

見附市では平成 27 年度からスマートウエルネス事業に取り組んでいます。スマートウエルネスの夢のための市内 13 校、特色のある取り組みを推進しております。

スマイルハンドブックの活用や、楽しく正しく歩く習慣を図る健康ウォーキング講

座、市内全校フッ素化合物洗口、歯磨き教室、小児生活習慣病予防事業、市と連携した事業として、薬物乱用防止教室、喫煙防止教室を行っております。

次に、中学校のスポーツ、文化クラブ活動の環境整備についてお話をさせていただきます。

見附市では子どもたちのスポーツ文化活動の選択肢を確保するため、持続可能な体制の構築を進めています。令和8年度に休日の中学校の部活動を実施しない姿を目指しており、令和5年度から令和7年度は改革集中期間と位置付けています。

昨年度は卓球とソフトテニスにおいて市内のスポーツ団体と協力し、休日の地域クラブ活動が始まっています。今年度は新たに野球、バレーボール、女子バスケットボールの休日の地域クラブ活動を行う予定です。さらに、その他のスポーツや文化活動、文化部の検討も現在進めているところです。

今年度は、子どもたちにチャレンジ精神や創造性、探究心などの起業家精神や、情報収集、分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力などの起業家的資質、能力を育むために、「見附ジョブチャレ教育」として教育活動を展開しています。地元の企業と連携し、講演会や職場体験、模擬会社設立体験、みつけビジネスアイデアコンテストなどの活動を取り入れていきます。現在、見附ジョブチャレ教育に賛同いただいている企業は26社あります。

次に、特色ある学校について、他市の取組も含めて一緒に紹介いたします。

見附第二小学校、田井小学校、上北谷小学校の3校は、いずれも少人数の特性をいかした教育を推進するとともに、地域との繋がりを大事にした教育活動に取り組み、大きな成果を上げています。3校は小規模の振興策として、みつばプランに取り組んでいます。5年生は、大平森林公園自然教室でEボード体験や自然散策を行っています。3・4年生は、アルビレックスのコーチによる合同フットサル教室に挑戦しています。

タブレットを用いたオンライン授業などにも取り組み、3校の友達と意見を交わし、交流を深め、考えを広げています。小規模校ならではの特色ある教育活動を行い、社会性を育む取り組みを進めているところです。この3校はオープンスクールとして指定されていて、希望者は見附市内のどの学校の学区からも通学できます。

オープンスクールについて少しお話をします。この制度は、小規模特認制度に基づいて行われており、見附第二小、田井小、上北谷小の3校以外の学校から希望する児童の進学を認めているものです。新潟県では、新井南小、長岡太田小中学校、南魚沼市栃窪小、城山小の7校があります。

小規模校のメリットとしては、きめ細やかな教育、地域に根付いた特色ある教育、よく知っている人間関係、様々なリーダー経験ができる、地域とともにある学校づくりなどが挙げられ、小規模校のデメリットとしては、多様な発言、考えが出にくい、社会性の育みに心配がある。人間関係が低下するのではないか、多様な活動が仕組み

にくい。競い合う適切な場や人間がないなどが挙げられます。

小規模校のよさをいかす方策としては、少人数であることをいかした教育活動の徹底、個別指導、繰り返し指導の徹底等による学習内容の定着、地域との密接な繋がりをいかした校外学習や体験活動の充実が考えられます。

小規模校の課題を緩和する方策としては、小中一貫教育による一定の学校規模の確保、社会教育施設等の複合化による教育活動の充実、ICT の活用による他校との合同事業や小規模校間のネットワーク構築などが考えられます。

続いて、小中一貫校についてご説明いたします。小中一貫校のモデルとしては、図のように4つございますが、真ん中にある併設型と連携型をひとつにまとめて3つでご説明いたします。

まずは左の義務教育学校です。県内では三条市の大崎学園があります。ここは小中合わせて校長が1名です。湯沢町の湯沢学園、十日町市の松之山学園は、校舎は一緒ですが、小中に教育課程がわかれている、校長も別にいるので、分類としては、真ん中の小中一貫型小中学校になります。小中一貫型小中学校は小中にそれぞれ校長が1名います。基本的には建物で繋がっていないところが多いですが、独自の教科の設定や小中の指導内容の入れ替えが可能となります。いずれも条例や規則により、制度化された学校です。

最後は、制度化されずに従来の小中学校のままで小中一貫の定義である9年間の教育目標の設定、9年間の系統性、体系性に配慮がなされたものです。新潟市は、この運営上の小中一貫教育をモデルとし、小中一貫した教育を推進しています。

新潟県ではこの小中一貫、三条市でスタートしました。狙いとしては、小中9年間の継続的なものとして編成し、児童生徒の心身の発達に応じた教育を行うこと、連携教育をよりしやすい環境をつくること、保護者、地域とともによりよい教育環境づくりを推進することを狙いとしています。

効果として期待したことは、中1ギャップの解消、基本的な生活習慣の定着や自分を大切にできる心の育成、いじめ不登校の減少、小中の学習をスムーズに連続させる指導ができることなどです。

成果とされているのは、中学校進学への不安が軽減した、中1ギャップに起因する不登校数の減少、教職員の意欲の向上などが挙げられました。

課題として挙げられていたのは、児童生徒の学習意欲の肯定評価に変化が見られなかったことが述べられていました。

先ほどの新潟市での小中一貫の取り組みにおいても、成果として学習規律や家庭学習の習慣の定着が図られた、中1ギャップの防止に効果があると感じている、挨拶などがよくなったなどが挙げられています。

課題として、小学校と中学校の予定を合わせることの難しさや、目指す子どもの姿の共通理解など小中一貫の進め方についての難しさなどの意見が出されておりました。

た。

その他に、学校選択制についてご紹介いたします。文部科学省では、学校選択制の形態を4つに分類しております。自由選択制は当該市町村内の全ての学校のうち、希望する学校に就学を認めるものです。例として、埼玉県の戸田市や大分県の豊後高田市などの学校が挙げられていました。

ブロック選択制は、当該市町村内をブロックに分け、そのブロック内の希望する学校に就学を認めるもので、従来の通学区域は残したままで隣接する校区内の希望する学校に就学を認めるものなどです。東京都の日野市や品川区などがこれに当たります。

特認校制は、従来の通学区域は残したままで特定の学校について通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるものです。福岡の北九州市や見附市のみつば3校もこちらに当たります。

最後に、特定地域選択制、こちらについては、従来の通学区域は残したままで特定の地域に居住する者について学校選択を認めるものです。この学校選択制について品川区の例を少し述べたいと思います。品川区では、平成12年に小学校で学校選択制が始まりました。これは区を4つのブロックに分けてその中で選択できるものです。翌13年には中学校で学校選択が行われました。これは区域全域から選択できるものです。ただし、通学区域の児童生徒を最優先として受け入れた後、受入に余裕が生じた場合に受け入れるという学校選択制でした。

ちょっと資料に誤りがあったのですが、平成18年に小中一貫教育がスタートしました。こちらについては施設一体型の学校ができたわけですが、平成28年にはこちらが義務教育学校となって6校が設置されております。ただ、令和2年度には、この学校選択制通学校区について一部見直しがなされました。そこの図にあるように、学校選択できるよさを保ちながら、地域とともにある学校づくりを推進するという考えでブロック制であったものを、学校の周辺地域の中での選択ができるようにしたというものであります。

最後になりますが、学びの多様化学校について説明いたします。この学びの多様化学校、いわゆる「不登校特例校」という最近耳にするようになった学びの多様化学校ですが、この制度は、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が学校指定し、特定の学校において教育課程の基準によらず、特別の教育課程を編成して、教育を実施することができるようにするものです。

留意事項としまして、不登校児童生徒以外の児童については、特別の教育課程の対象にはなりません。不登校児童生徒の実態に配慮して、不登校児童生徒の学習状況に合わせた少人数指導や習熟度別指導、児童生徒の実態に即した支援、学校外の学習プログラムの積極的な活用などの指導上の工夫をすることが望ましいというふうにされています。現在35校、公立学校21校、私立学校14校が全国に設置されています。

ニュースでも出ていましたが、上越市ではこの学びの多様化学校の設置に向けた検討を始めたというふうに報じております。

以上、長くなりましたが、見附市と各学校が大切にしてきた教育、そして特色ある学校についてお話をさせていただきました。また、これからの市立学校の配置等の議論の参考にしていただければ幸いです。以上です。

(委員長)

はい。ありがとうございました。

何かご質問ありませんかという無謀なお問い合わせはしません。この資料はですね今後の検討にまた役立つものですので、ぜひお手元に置いて、不明な点がまた生まれたらまた質問していただけるとありがたいと思っております。

(委員長)

すみません、画面を切り替えてもらってもいいでしょうか。

実はですね、私、今回非常に悩みました。これからの協議の入り口は結構重要だと思うのです。どんなことをどんなふうに話したらいいかっていうのは、いろんな形はあると思うのですが、まず今日ここに（案）としてあるのは、一応、教育委員会には相談させていただいたのですが、案としてちょっと提案させていただきながら、これからの話し合いの進め方について、また皆さんのお知恵をいただき、よりよいものにしていきたいというふうに思います。

要はせっかくの協議ですので、委員の皆さんの意見交換の場になったり、あるいはこんなふうになるとより良いものが見えてくるなかだったり、話し合いにそんな気づきが生まれてきたらいいなというふうに思っております。

それで、せっかく課長さんからお話をいただいたので、資料も含めてですね、その資料の中で聞いてみたいというのがあったら、それも出してみてください。今日は学校視察を行いました。学校視察での気づきでも構いません。

また委員の皆さんはそれぞれのお立場で今日この場にいると思います。例えば、小中学校のコミュニティスクールの代表であるとか、PTA 会長さんであるとか、それぞれお立場あると思います。その立場でぜひ、自分が今関わっている、あるいはお子さんがいる学校の良さであったり、これは委員としての自分が捉えた課題であるとかいうようなことだったりを含めて質問、疑問、感想を共有していきたいというふうに思います。これを今日は1つ目のメインにしたいと思います。

（案）と示してあるっていうのは、この後この検討委員会をどういうふうに協議を深めていったらいいかということについて、私の方でまた改めて提案していきたいと思っております。

最後に、委員の皆さんにマイクをお渡ししながら進めていきたいと思いますが、副

委員長さんからは、最後に副委員長としての思いを合わせて語っていただけるとありがたいなと思います。

毎回同じ委員さんからすみませんが、いいでしょうか。はい。ありがとうございます。

もし質問が出たらそのときにまた回答をお願いすることになるかもしれませんが、委員の皆さんの中に広めさせていただくこともあるかもしれません。ご了承ください。それではお願いいたします。

(委員)

はい。お疲れ様です。私、今日学校視察に行かせてもらいました。初めて第二小の校舎の中に入って複式授業を体験してきたのですが、非常にメリットの面の話をされて、例えば5年生、6年生が同じ教室で授業を受けることによって、上の学年の子が下の学年の子を見るだとか、先生のスキルアップに繋がるという話も聞きました。

見ていてこれも一つの形であって、必ずしも生徒数が少ないから廃校というわけにはいかないんじゃないかなと思いました。むしろこういった形を残していくのもひとつの案かと思いました。

そんな中で、そういう子たちが、例えば第二小だと6年生は卒業すると否が応でも見附中に行くわけです。ある程度の規模の中学校に進む。そこでどうしても生徒数のギャップもありますし、ちょっと戸惑う子が出てくるんじゃないかと思われました。

だったらいっそのこと、もう少し小規模の中学校を設立したりとか、そういったのもいいんじゃないかなと思って、今説明を聞いたら小中一貫とかあるんじゃないかという説明も聞いたので、そんなのも一つの選択肢で、よりきめ細やかな教育を見附市は進めていくんだというのもひとつの案だと思いました。

それと、施設の老朽化も含めてなんですけれども、行った学校3校とも教室は涼しいですけれども体育館は暑かったです。ここで体育の授業をして汗をかいて涼しい教室に戻ると、みんな風邪ひくんじゃないかと思ったので、体育館だけでも少し冷房を考えていただければいいんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

(委員長)

はい。ありがとうございました。早速1つ提案をいただいたような気がします。ありがとうございました。

それでは委員お願いします。

すみませんが時間の関係もあるので、短くても結構ですが、長くてもお1人さま3分以内くらいで回していただけますでしょうか。お願いします。

(委員)

お疲れ様です。

今日は学校の方にはちょっと行けていないですけど、この会議というのは統合とかをどうしたらいいかっていうところから入っていると思うんですけど、私も小さい学校の良さっていうのはわかります。第二小学校とか田井小とか。ちょっと思っていたのが、オープンスクールでどこからも来れる状態になっているのが見附で3校もあるということは、選ぶのも3通りになってしまうので、実際オープンスクールで学区外の人がどこの学校を選んでくれたのかっていうのがちょっとわからないので何とも言えないっていうか、統合したらいいとかしない方がいいというのはちょっとわからないですが、小学校はなるべく統合して欲しくないなっていうのがあります。

できれば、近いところだとどこでしょうか、たとえば名木野小学校の方から行けるとか何かそういうのがあって、保育園はもう少なくなってきたと思うんですけど、ちょっとそういうふうに地域に分けて欲しいなっていうのは子どもがいる地域って結構大事だと思うので、そういうふうになるといいなと。

そうになったら通学面とか親の送り迎えとかあると思うんですけど、確かに長岡の太田小学校とかは結構な山のところにあると思うんですけど、お母さん方の送り迎えと、あとはバスで、というふうなのがあるので、もしそうなら交通手段とかを確保していただければそういうことが可能なのかなと。

それと中学校の老朽化がちょっと課題になっていて、私は今町なんですけど、今町中学校も少子化が始まっていて、あのデータを見ても必ず少子化に向かっているなっていうのは感じました。外から入ってきた子どもを増やしてもらおうっていうのもわかるんですが、それはすぐ実現するわけじゃないので、今町小学校に空きがあるなら小中一緒になってもいいかなって、ざっくり。何の考えもなくちょっとそれでもいいのかなって、外から入ってくるものが今町にはないので。それでもいいかなと思ったのが率直な感じですか。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。またこれも1つ提案いただいたと思いますし、示唆をいただきました。

事務局へのお願いですが、オープンスクールのどこからでも入れる良さっていうことについて、具体的な事実で資料提供いただけるものがあつたら次回でも結構ですからちょっと教えていただくとありがたいなと思います。

今でもよろしいですか。ではお願いします。

(事務局)

今のデータの件ですが、第1回の資料を持ちでしょうか。第1回資料の7ページに

なりますが、オープンスクールの児童数の推移というのがありまして、それぞれの学校にどの程度オープンスクールの子がいるのかというのがこれを見ていただければわかるかなというところです。

(委員)

この学区以外から来た人数のことですね。はい。わかりました。ありがとうございます。

(委員長)

はい。第1回の資料に確かにありました。
それでは委員お願いいたします。

(委員)

私も今日3校の視察に参加させていただきました。

気がついたっていうのは、やっぱりみんな挨拶しますね。「こんにちは！」とちゃんと挨拶してくれるのは非常に嬉しかったのと、大きな学校では大きな学校の特徴があるなって思ったのが、見附小学校に行ったときに教室を回ったら、教室にですね、あとで教頭先生に聞いたんですけども、子どもたちの自主活動しているグループがあって、「体操を推進しようグループ」とかですね、もう1つ「キョクメラグループ」とかっていう何かわからないのがあって、教頭先生に聞いたんですけども先生もちょっとわからないとのことでしたけども、ただ、子どもたちが自主的にそういう活動グループを自分たちで作って、それみんなに広めていこうというようなことをやっているみたいなんです。これは結構大きな学校でいろんなグループができる特徴をうまくいかしているのかなというふうに思いましたし、それから、1階から2階、3階にそれぞれ多目的ホールっていうのがあって、そこに誰もが行って休めたり、話ができたり、それで本が置いてあるんです。結構いろんな本が置いてありまして、うらやましいなというふうに思っ。ある委員の方と、こんなに見附小学校は本がたくさんあるんだったら、それを順繰りに各小学校に2ヶ月ぐらい貸し出ししてもらってもいいんじゃないか、というようなこともちょっと頭の中にポンと浮かんだりして話をしました。

今度は第二小学校に行ってみますと、同じ図書が廊下のところにあっただけですけど、これが丸山図書館と書いてあって、校長先生に聞いたら、地域の方が寄付してくれたんですよ、というようなのがあって、教室に入ってみたら昔のゲームとかですね、サッカーゲームとかトランプとかオセロとか昔のミノとか灯明とか置いてあって、地域の人たちは学校を非常に大事にしてるんだな、それをポンと学校側も受け入れて、それをちゃんとみんなが使えるようにしてくれてるんだな、ということで、それぞれ

の特徴が非常に出ていて有意義な視察だったかなというふうに思っております。ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。施設設備の工夫、今は移動する学校図書館と言ったらいいんでしょうかね。そんなアイデアをちょっと出していただきました。

何よりも子どもたちの自主性が見られたというあたりは、今日の視察の収穫だったのかなというふうに思います。ありがとうございました。

それでは委員お願いします。

(委員)

南中学校 PTA の役員同士で今回の会議にあたって伝えてもらいたいという話があったので、お話ししますね。

南中なので、田井小、名木野小、上北谷小ということで、小規模校 2 校が入ってきておまして、上北谷小の方なんかは本当に人数が少なくて、小規模校は小規模校でいいんだけど、役員さんの方も小学校 1 年生のときからずっとやり続けている状況で、そのあたりは各家庭とても負担になっています。子供会とか講演会とか、そういったものも含めてそのあたりの負担を軽減しつつ、ただ小規模の良さをいかしつつというのがなかなか難しいなということでした。

みつばプランに関しては、田井小の方も上北谷小の方も「すごくいい。子どもたちにとってはとてもいい体験になっているので、このまま続けていただきたい」ということでした。

私の説明の方は名木野小学校区になりまして、たまたまこういったわくわく体験塾だとか防災教育、子育ての日など参加させてもらっていて、将来について先日娘に尋ねました。実際私の方が千葉県出身で夫の地元の見附に来ている状態で、自分はそんなに地元千葉市にこだわって住もうと思っていなかったんですが、娘は将来は見附に住みたいとはっきり申し上げまして、こういった小学校からの教育で見附というまちを好きに思っているんだなってわかりまして、ぜひ今後も続けていただきたいなと思いました。

(委員長)

はい、ありがとうございました。みつばプランについてご賛同いただいたような気がします。

それでは委員お願いします。

(委員)

私も本日視察をさせていただきました。西中学校に行ったときに、老朽化でいろいろ直した箇所とかも見たんですけど、私自身も見附中学校出身で去年まで娘もいましたし、似た建築年数だったんですが、何かいろいろ建物両校舎とも傷んでいたんですけども、将来的に中高一貫校があるとやっぱりいいなと思いましたし、西中学校のクラスがちょっと増えている、人が増えてきてクラスが足りないと言っていたんで、見附小学校の学区の見直しとかももう1回考えてみたらどうかなっていう考えがあります。そんな感じです。

(委員長)

ありがとうございました。小中一貫、学区の見直し等のまたキーワードをいただきました。ありがとうございました。

それでは委員お願いします。

(委員)

ちょっと私用で視察は行けませんでした。

私も前回の会議からいろいろ考えてきたところがありますが、今まであまり他地域のことに 대해서는あまり関心がなかったなというのが率直な意見です。

今町小学校なんですけど、過去の経緯からすれば、下関、坂井町、今町が3校合併して今の今町小学校ができたという経緯もあり、こちらのみつばプラン校さんもそれぞれ独自の取組をしているわけですが、将来的には、私の勝手な考えなのですが、同じような形で何かひとつになることで、また新たな取組もしていけるんじゃないかなと、そんな想像をしました。

そうすると、また地域から子どもたちが少なくなってしまうと地域が衰退するんじゃないかなっていう、そういう考えもやはりあります。ただ子どもたちが、人が増えることで、いろんな多様性、将来的にはいろんな方と関わる、そういった能力も身につけられるんじゃないかなという意味で、これも考えていく内容のひとつかなと改めて感じました。そんなところですよ。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。地域と新たな取組ということで、またこれは私達自身もこの検討委員会の中で考えなきゃいけないことになると思いますのでよろしくお願いします。

それでは委員お願いできますでしょうか。

(委員)

はい。私は今日視察に入っていた見附第二小学校の出身であり、今 PTA 会長

をしているんですけども、全くこの資料に書かれているとおりで、小規模校のいいところと課題みたいなものは全くそのとおりだなと、書かれているところを読んで説明されているとおりだと思いました。

その中で、みつばプランというのがあるって、うちの子も参加しているんですけども、非常にいいと思うんですが、第二小はその次の中学が見附中学校で、せっかく田井小と上北谷小の児童の人たちと仲良くなれたんですけども、中学校に行っても会えないというか、そういうことがあるのでちょっと残念かなと思ったのと、見附市のやっているわくわく体験塾、わくわく見附アクションプランは非常に良いと思います。わくわく体験塾はうちの子も結構応募しているんですけども、やっぱり人気があるところにいっちゃって、なかなか体験塾に入れないということがあって、1年ちょっと見送ったこともあって、他のものにしたらどうだとも言ってたんですけども、やっぱり好きなところにしか行かなくて、わくわく体験塾とかプランはまだ引き続きやっていていただきたいと思います。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。大変たくさんの行事への理解を示していただいて、ありがとうございました。

それでは委員をお願いします。

(委員)

今日の視察には行けていないんですけど、私も子どもたちがですね、いろいろなわくわく体験塾もそうですし、プレイラボはやはりできてすごく本当にたくさん遊ばせていただいているので、本当に子育てがすごくしやすいな、というのはちょっと感じています。

ですが、私が見附小の学区にいるので、プレイラボにも毎日遊びに行けますし、恩恵を授かっているところがあるのかなと少し思います。

なので、見附市の楽しいこういう施設だったり、体験塾だったりとかも、参加できる方とやっぱり送迎が、ということになってできない方も、あるのかなっていうところがあって、その距離とか送迎とか、何かそういうところの、平等に皆さんが楽しめるような工夫ができるといいのかなと思いました。

これはその学校の通える距離とか、そういうところにもなるのかなと思いますけれど、移動を子どもたちが安全にできて、みんな楽しいところで遊べるといった環境ができるといいなと思いました。

(委員長)

はい。ありがとうございました。移動するとか参加するとか、対応の公平さという

点は非常に大事になってくるかと思えます。ありがとうございました。

続きまして委員お願いいたします。

(委員)

はい。私は今日、視察も参加させていただいて、自分の母校である見附小学校ですとか西中学校も見せてもらって、老朽化の部分もすごく感じました。

あと、大規模小学校と小規模小学校の違いの部分も見せてもらって、みんな子どもたちは学校が大好きなんだなっていうのを感じましたし、先生方の熱い思いもとても感じてきました。それぞれが素晴らしいなっていうふうにやっぱり思いました。

私、息子が小学校2年生なんですけど、聞いていたはずなのにみつばプランをよくわかっていなかったなっていうふうに思いました。どの段階で最初に聞いたのか、そういうふうを選ぶんだとか、でもきっと見学とかも随時やっていたとは思いますが、見学に自分も行かなかったし、今日初めて第二小見学に行かせてもらってすごいなと思いました。

小規模校だからこそ臨海学校に毎年全校みんなで行くって言って、それもみんな子どもたちが楽しみにしていてすごいって思いましたし、自然豊かだからこそ稚魚を放流させたりとか、すごいいろんな活動しているんだなっていうのはすごく思いました。

実際に見て気付いたっていう部分があったので、もっとアピールできる方法がないのかなっていう、実際もっと来てもらう人が多くなれば、もっと魅力が伝わってオープンスクールの、そのみつばプランからの人が増えるのかなっていうふうに思いました。はい。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。先生方の思いに触れていただきありがとうございました。

それでは、委員お願いしたいのですが、この検討委員会に関わっての感想、思いでも結構ですのでお話しいただけるとありがたいと思います。

(委員)

はい、本日はお越しいいただきありがとうございました。当校のことはおいておきまして、今日は小規模校につきましてちょっと感想も含めて述べたいと思います。それに関わって、資料のことで、一応確認ということでちょっと質問させてください。

7 ページのみつばプランのところで、こういう活動をしていますよというふうに、それによって社会性を育むことができますというふうに口頭で述べられたと思うんですね。ところが8 ページの上の方だとデメリットのところは社会性の育みと書いてあるんですが、結局、小規模校によって社会性はむしろ育まれることがあるのではな

いか、あるいは、そうではないのか。その辺のところを、私が思い違いしているのかもしれないんですが、教えていただければと思います。

(委員長)

事務局よろしいでしょうか。

(事務局)

はい質問にお答えします。まずこのみつばプランを通すことで、やはりいろんな普段もう顔なじみの子どもたち以外の子どもたちに触れるということは新しい経験にもなりますし、その面で社会性というのは確かに育まれると、ただそれが、なかなか経験が継続し続けるっていうのはやっぱりまた難しいところでもあって、そういった面でより一層、何か方法を考える必要があるんじゃないかという面の方がデメリットということで述べさせていただきました。

(委員)

はい、ありがとうございます。当校のような学校ですと、やっぱり毎年すごい数の転出入がやはりあるのですが、ただ、そういうときにうまく、本当に子どもたちは自然に受け入れているんですけれども、やはり中にはうまくいかずにみつば3校の方に行って、そしてそこでうまく生活できるっていうお子さんもやっぱりいるわけですから、そういう意味で見附市はこの小規模の特認校ですね、これをやって選択できるというのはすごくありがたいなと私は思っています。それを受け入れている当事者校、また子どもたちとか、それから多くの大人が関わっていると思うんですけれども、そういう関わりがある地域の学校というのはやっぱり素晴らしいなと、本当にありがたいと思っています。

その上でただ、今後のことを、将来を見据えたときに、小規模特認校はより個性というか、特色がやっぱり大事なんだろうと思っていまして、今日の資料で言うと新井南小学校なんかはまさにイエナプランということでかなり出しているわけですが、見附市さんがたくさん取組をされていて素晴らしいわけで、当校なんかそれを実現しようと頑張るわけなんですけど、けれども、小規模校の場合、一律同じことを全てやろうとしたら職員数は限られているわけですので、例えば今日の事例でいえば、学びの多様化学校なんていうのもそうでしょうし、むしろ見附市が今力を入れているジョブチャレでの起業家教育をもっと力を入れる、そこに焦点化する、というのもひとつなのかもしれないし、将来的にはもう少し個性というのも出していくのもいいのかなというのを感じていました。これが小規模校についての思いでした。

それから、今日の当校についてのことなんですけど、一言だけ。子どもたちの、とにかく今は意見をたくさん大事にしようとか、教育の中で取り組んでいます。ですの

で、学校全体でも子どもの意見をもとにして学校行事をつくったり、それから学級でもイベントのような形でどんどん新しいものをつくってそれを広げているというのが全体でちょっと力を入れているところです。これは、こどもの条例ですね。それを受けて力を入れているところです。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございます。また学校の具体的に触れるときにはいろいろ教えてください。ありがとうございます。

それでは委員お願いします。

(委員)

はい。まとまらないんですけども、今日お話を聞きまして、このコンパクトな見附市だからこそ見附市全体を考えた魅力ある学校のあり方という第1回での大もとになる考え方から、じゃあ見附市全体を考えた魅力ある学校のあり方って何なんだろうなというふうに自分が考えたときに、今日思ったのは、やっぱり見附市は「まとまり」というところがセールスポイント。

これまでの取組の中ではセールスポイントでもう市全体で、今日もあったけれどコミュニティスクール、それから市全体でユネスコスクールにも登録されていて、見附特別支援学校は日本初のその中でユネスコスクールになったという経緯があります。もうどこかの学校だけじゃなくて市全体でやっていくと。

私は以前、見附市教育委員会にいたんですけど、そのときには学力向上も7つの方策を考えて、7つだから「見附レインボー」って名付けたんですが、その7つの方策は見附の小中が12校全部でやっていくと。とにかく見附市はまとまってやっていくことによって、おそらく大規模とか中規模とか小規模の差をなるべくならしていこうというふうな取組があったんじゃないかなというのを今日改めて説明を聞いて感じました。

そうなったときに、今回の学校配置等検討委員会等を繋げて考えると、見附市全体として今回の問題を考えていったときに、小規模校とか、あるいはなかなか集団の、小集団の中でこそ光る子についてはこうだろうかというふうに考えて、市全体としての学校のあり方を今日紹介があった学校選択制などの考え方も取り入れながら考えていく案もあり得るのかなと今日の段階では思ったところです。

ただ一方で、今日の視察でも改めて感じたんですが、小学生というのはやっぱり地域性というのが大事だなと。小学校の勉強というのは生活科と1、2年生でやる勉強、学校の周りの勉強をして、今日見附小学校にもあったけれど、近くに何々があったら案内があったというふうなのが模造紙いっぱいには貼られていましたが、ああいうのが、学区が広がると学校にたまたま近い子はいいいけれども遠くの子、遠くから通って

いるものですからスクールバスで通ってる子は、学校の周りを探検しても本当の意味で自分の地域だとはなかなか感じにくいんじゃないかなと。なので、地域を学び、学習のフィールドにしている小学生にとっては、やっぱりあまりにも地域が広がり、学区が広がりすぎると学習との関連においてちょっと課題が出てくるかなというのを改めて感じました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。今後の協議の中でまた、その考え方をまた伝えていただけるとありがたいと思いますが、小学校と中学校とでは違うというようなこともご意見としていただいたと思います。ぜひ市全体としての学校のあり方を考えていく上で柱にしていきたいと思います。

委員お願いいたします。

(委員)

時間も押してきて、なかなか頭が回らなくなってきているんですけど、2 つだけお話をさせていただきたいと思います。

1 つは小中一貫教育のご説明も資料の中に書いてあるんですけど、多分私の感じですけど、方向のひとつとして小学校併設中学校型というのがなかなかいい感じではないのかなというふうに思っています。というのは、皆さんご存知のように見附市のこういう資料をちょっと見ましたら、昭和 22 年頃でしょうか、中学校は全て小学校に併設されていたらしいですよ。学制っていうか制度が変わったことがあったかもしれないけれど、ですので、そういったこともあって、小学校プラス中学校というのがやっぱりあるんだなということを改めて気付きました。

それともう 1 つは、この検討会で、いずれかの形でまとまっていくんだろうと思います。そのときの得られたものっていうか方向性として、例えば建設費のダウンとかもあるでしょうが、もうひとつは、1 回目の資料に書いてあるように、誰 1 人取り残さない学校教育という大事な文言があると思います。ですので、ひとつの方向に向かったときに、いじめの子どもさんの数が明らかに減っていきそうだとか、不登校の子どもさんの数が明らかに減っていきそうだとか、そういった指標っていうか、方向性が感じられる結果が得られればより良いのかなというふうに感じています。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。委員からまた今、提案をいただいたと思いますし、誰 1 人取り残さない、SDGs もそうなんですけども、こういったようなキャッチコピーの意味するところは、やっぱり学校教育に繋がっていると思います。ありがとうございました。

それでは委員、お願いします。

(委員)

はい。すみません、私もそんなに考えがまとまっていないので、今日視察に行かせてもらって、率直に感じたところだけを話させてください。

まず、見附小学校に伺って一番衝撃だったのが、校舎が現在の形になって、できた当時は1600人収容できるぐらいの規模でいたのが、だったら今はもう500人だから、まだ全然受け入れられるのかなって思っていたんですが、お話を聞いていくと児童数が今現在でも結局、現在の環境、今通常のクラスが17学級、それから特別支援学級9学級と通級が2クラスということで、もうそれで今の基準でいくと9割以上埋まっているという話を聞いたので、これだけ子どもが減っても学校自体の余裕がないんだなっていうのがちょっと意外なふうに感じました。

あと、地域の方の協力、フォローがすごく充実していて、やっぱりこれもまた私は小規模校の上北谷小学校の近くなんで、感じたのはやっぱりそれなりに見附小学校の地域の方も大勢いらっしゃいますので、やっぱりその辺の差が地域からのフォローの、パワーの差が出てくるっていうのもちょっとあるのではないかなっていうところも感じました。

次に第二小学校に視察に行って、確かに少人数をいかしているいろいろ工夫されていて素晴らしかったのですが、特に学校の先生、すごいご苦勞されているなって感じたのが、やっぱりこの複式での授業のやり方をかなり工夫して苦勞されてやられているなっていうことを感じました。

確かに複式もいいところがあるかもしれませんが、これって今現状必要に応じて、必要に迫られて複式になっているだけであって、これと別に複式の良さをいかした他のやり方ってきっとあると思うんです。だからまず、この複式であること自体がそんなにいいことではないのではないのかなって私は感じました。

オープンスクールは他校から行けるというメリットはありますけども、逆にこういった学校がいいから来てるっていうのもありますけども、例えば学区にこの学校しかなくて、けどうちの子はこの学校に通わせても向いてないな、もっと大きい学校に通わせたいなって思っても、今度は逆にそっちは選べないんですよ。なのでこの辺でちょっと不公平感が出ているかなっていうのは少し感じました。少しというか、めちゃくちゃ感じています。小規模校に関してはちょっといろいろ思うところあるんですが、また次に話させてもらいたいと思います。

次に西中で、建物関係で感じたのは、何か問題があるごとに修繕をしていきますけれども、やっぱりなかなか根本的に解決には至らないということで、やっぱりそれを解決しようとなると、多大な費用がかかるんだろうなというふうに思いますし、例えば今回の名木野小学校並みのフルリフォームをもしかけたとすると西中学校ぐらい

だと多分 30 億円くらいかかるんだらうから、基金から考えると無理なんだらうというところで、そうすると今学校どうにかしていかないとなつてなると思うと維持費をひたすら払い続けるしかないのかなというふうに感じました。

一応、率直なところで、以上、ということで終わります。

(委員長)

はい、ありがとうございます。委員にとっては本当に今日の視察は新鮮な思いで見られたということをお話いただきました。複式に関わるというのを教えていただきました。ありがとうございます。検討の中で生かしていきたいと思ひます。

それでは委員お願いします。

(委員)

はい。私も今日、視察に参加させていただきました。大規模な小学校と小規模な小学校それぞれの良さを初めて確認させていただきました、これ素晴らしい取組を行っているなと思ひました。

やっぱり皆さんおっしゃるように、地域の方々の協力なしには成り立たないんだなと思ひましたし、やはりこうして見学というか視察をしなきゃわからない部分が非常に多いなと思ひました。

なのでこういう委員として参加させていただいているんで気づくところが多いんですが、一番は興味がない方というのは、あんまりそこまで考えていらっしやらないと思ひますし、ただ児童数が少ないから合併しようとか、統廃合しようとか勝手なことを言うのではないのかなと私自身は思ひました。何度もちょっとそういうアピールしていければなと思ひています。

あと、学校老朽化とかその辺についても、まずだいたい見た感じでは進んでいるなと。第二小なんかもせつかくいい取組をしていて素晴らしい学校なんですけど、外回りが非常に傷んでいていろいろ問題だなど。やっぱり見た目も大事ですし、ちょっと取組が負けちゃってるんじゃないかなと思ひました。

西中に行って、先生がおっしゃっていた来年は教室が足りなくなるとかいう話も出ましたが、やっぱりそれは数年単位での問題だと思ひるので、また何年かすれば教室が余ってくるような状況にもなろうかと思ひます。ただ部屋を増やす対応だけでいいのかというように思ひましたし、その辺も改めてどうやって取り組むべきなのかをちょっと話をしていければと思ひました。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございます。学校の事実、そして地域との関わりを第一にこの検討委員会では扱ってきたいというふうにお思ひます。ありがとうございます

た。

それではお待たせしました。はい、副委員長お願いします。

(副委員長)

はい、ありがとうございます。私の言いたいことを皆さんに言っていただいたんですけども、私の地区では今、子どもたちがすごく増えていまして、先ほどからいろいろなお話が出ていますが、小規模校から大規模校に行ったときの子どもたちの気持ちや、大規模校や小規模校のメリット、デメリット、いろいろあると思います。

実は私も、みつばプランですか、あまり理解していなかったので申し訳ないんですけども。私の勤めているところも小学校と繋がっていますので子どもたちだけで来ることはないんですけども、やはり子どもたちも元気が良くしっかりと挨拶してくれます。学童も同じセンター内でやっていますんで必ず入ってくる。うちのところは1年生なんですけども、「ただいま」という大きな声で入ってくるので、思わず私も仕事をしながら「お帰り」という大きな声を出してしまうんですけども。

葛巻の方はですね、いろいろ悩みもありまして、先ほど他の委員さんも言われましたけども、昨年校舎が足りなくなっていますね、教室を増やすため急遽工事をしたというのを聞いておりますし、ランチルームを改造して工事をしたということも聞いております。

町内によっては子どもがいない町内も実はあるんです。小学校の中で。かと思えますと1つの町内で140人ぐらいの児童がいると、あまりに大きすぎて親の方との繋がりもあまりわからないとか顔もよくわからないという悩みもあるということも聞いたことがあります。

私の孫も30mぐらいの所のアパートに住んでいるんですが、実はその30mという距離で学区が変わるんです。私、葛巻に来てくれるのかなと思っていたんですけども、この間「僕、名木野小学校に行く」と聞いてすごく複雑な気持ちになったんですが、これでまた私と女房の2人暮らしだなと思ってしまいましたけれども。

いろいろなこれからの問題が出てくると思いますが、皆さんともこれからいろいろ検討していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(委員長)

はい、ありがとうございました。今、副委員長からお話ありましたが、やっぱり子どもの気持ちは無視できないと思います。そういったようなこともあって、ちょっとこれから先、画面の方を見てほしいんですが、この検討委員会は何をすべきかということについて、1回目が終わった後から私自身も改めてまた考えたんですけど、確かに諮問に対する回答をするというのが使命ではありますので、それに向けて回答をつくっていかなくちゃいけないというのはあるんですが、回答に固執しすぎては、何の

ための検討だったのかという意味が、それから価値が、どう問われるのかなという、そういう懸念も少し持ちました。

1 つは、検討委員会の果たすべき役割として、現状のどんなことをよしとするか、つまり今日委員の皆さんからも出ましたが、改めてこういうところはいいなとか、それからこういう点が疑問に感じたとか、こういう点は見直すべきだとか、そういったものを含めて現状どんなことをよしとするかという視点は当然大事だと思いますので、良いものは良いという立場でもって追求していくことが必要だというふうに思います。

それから 2 つ目は、特に諮問理由にあった中身を受けて、一体どんな教育環境を、目指すべき教育環境に対して、どんな考え方と方策を打ち出せるのかということについて、1 回目と今日の会を通して、小中学校別に協議していく必要はあるなというふうに感じています。

諮問理由のところを改めて注意して見ていきたいと思います。諮問書、いただいた諮問書の中からのフレーズです。少子化そのものは置いておいたとしても、「児童生徒 1 人 1 人の多様性に対応できる教育環境づくりも重要です」というふうに文中で述べられています。「今後の教育環境の変化等も考慮しながら、教育活動のより一層の活性化を目指し」、ここ、大事なポイントだと思います。それから、「将来を見据えた市立小中学校の適正規模・適正配置等の考え方と実現に向けた方策について答申いただきます」という末尾の部分があります。

これらを見ていったときに、実は次回とその次の会議ですね、グループ協議を最初からしてみたいというふうに思っています。これは 4、5 人で 1 組になって、委員のメンバーだと 18 名ですから 4 グループぐらいにわかれて、事務局の方も 1 人ずつ入っていただきながら、一応進行をしていただけるとありがたいなと思っていますが、そんな中でさっき言った現状のどんなことをよしとするかという再認識に繋がる協議とともに、この基本的な考えと実現に向けた方策をどう打ち出せるかということについてのグループ協議です。それについてグループ協議の時間を取った後ちょっと発表し合おうというふうに考えました。

実はこんなふうな作業シートを作ってみました。解説はまた後でしますが、これでもってちょっと、ファシリテーションといって付箋を使いながらですね、意見整理をこの委員の皆さんの中でしていきたいと思います。今日、貴重な意見いただきました。次回また蒸し返しても構いませんので、ぜひまた出していただければありがたいというところです。

この縦軸・横軸が意味すること、それからこの作業シートが意味することについて少しご提案申し上げます。

まず横軸がありました。横軸はこういうものでした。この緑色のものですね。これはさっきの諮問書にあった「児童生徒の多様性に対応できる教育環境」、難しい言葉に

なっていますけれど、こういうふうを考えてみたらどうでしょうか。

まず学校の主体者である児童生徒の多様性に対応できる教育環境として、私達が今考えている、あるいはこれから考えようとする、あるいは個人的にこういうふうにしたらどうなんだろう、これがいいんじゃないかっていうような、そういう意見全部そうなんです、それは地域や学校事情が優先しているのか、あるいは子どもの活動が優先しているのかという物差しを持ってみたいと思いました。

これは教育効果を生む適正規模・適正配置の考え方であり、私達が今求められているのは教育効果を生む適正規模・適正配置等の考え方です。そこにこだわってみました。

一般的にですよ、これは一般的には、適正規模を進めるに当たっては、小規模校は統合が基本。そして大規模校は分離、新設、通学区域の変更、増築などで対応することが多い。これはもう多くの事例がそうです。ただしですね、これはこの委員会のもう所管外になりますが、それぞれの学校事情、地域事情により合意形成されていくということが必要なんです。そのことを前提にこの横軸、特に子どもたちのことが優先なのか、学校事情や地域事情が優先なのかという物差しでもって、ひとつは方策を眺めてみたい。

それから今度は縦軸ですね。さっきちょっと説明しましたこの縦軸です。いいでしょうか。この縦軸は、将来を見据えた公教育を行う上で児童生徒にとって、あ、皆さんからも今日強調されていました。「公平」という言葉が出ました。公平で良好な教育環境と言えるのかどうか。そういったような物差しを持ってみたい。それで、その物差しのベクトルの行きつく先として見附市の良さが優先するのか、それとも今の社会情勢を含む地域、学校を含む教育環境の変化が優先するのか、そこらあたりから教育効果を生む適正規模・適正配置等の考え方を見つけてきたいとうふうに思います。

公平とか良好な教育環境を作るっていうのは公教育の使命です。そんなときにこの適正規模について一般的に言われていることは、「ある程度の人数がいて、多様で豊かな人間関係が経験できる活気ある環境の中で切磋琢磨し未来に向かって互いに成長していくことが望ましい。また学校規模によるいろいろなメリット・デメリットを」、またここで教育環境という言葉が出ますが、これは学校で言うところの、学校の中で言うところの教育環境だと思ってください。「指導体制、学校運営の3つの視点から検討し、子どもたちにとって望ましい教育環境となるように適切な適正規模を見直す必要がある。」これだけ読むと全然わからないと思います。この3つは一体何なのかってことなんですけど、教育環境の視点というのは、様々な欠陥経験ができる、クラス替えが可能である。それから競い合いながら成長できる、子どもも教員も互いの顔がわかり信頼関係がつかれる、そんなふうに例えば定義しておきたいと思います。

それから指導体制の視点ですね。教員の間で授業づくりの共同研究ができる、中学校では全ての専門教科の教員が配置できる、それから子どもが教員と向き合い個々の

子どもをよく理解できる規模、要するに指導体制っていうのも重要な視点です。

それから学校運営の視点。保護者の負担が過大にならず、今日も委員の皆さんからご意見出ましたが、教員の出張や研修をサポートできる規模。特別教室の割り当てが無理なくできる機能、教室が足りないなんていうことは、やっぱり避けたいですね。こういったことが主な視点になります。またこれ後で資料として、もしこれでよしとなったらお伝えしようと思います。

ちょっと改めて見てください。これ作業シートですが、横軸は児童生徒の多様性に対応できる教育環境。地域事情、学校事情が優先するのか、子どもの活動が優先するのか。

次、縦軸。児童生徒にとって公平で良好な教育環境なのか。見附市の良さが優先するのか、社会の教育環境への対応が優先するのか。

一応こういったような物差しを持って、そして教育効果を生む適正規模・適正配置等の考え方であり、方策を考えていきたいと思います。

それで、これ、どこにあったから悪いっていうことではないんです。私達はこの適正規模・適正配置をただ単に学校統合がいいんだよ、すればいいんだ、とかではなくて、今あるよさがあるのであれば、それはどう生かせるのかっていうことや、それからどうあれば子どもたちはもっともっと学校生活が豊かになっていくのかとか、そういったようなことを考えながらやっていくとある意味、方策を生み出しやすいのかなということで考えた作業シートです。

今回は7月29日の予定なんですが、その後の8月の会とメンバーを3回目と4回目でちょっと変えてグループ協議を重ねて委員の皆さんの声を集めて検討課題、これを、なんて言いますか、見いだしていきたいと思います。当然検討課題の段階ですので、その後それを具体的にどうするんだっていうような協議に移っていきなきゃいけないわけですが、それは9月以降ということになるかと思います。

よくこういう会があると、こういうふうな回答で、なんていいますか、具体的にこうすべきだっていうような回答の仕方もあるかもしれませんが、結論を急ぐことなく、市長さんからもお話ありましたけど、選択肢ですね。それも実現可能性のある選択肢としてこれを位置づけながら全体協議を経て、グループ協議を経て、対応策の検討を重ねていき、不十分な点があって結論が出ない場合は、「答えはまとまりませんでした」で私はいいと思っていますが、それいうと責任は私とらななきゃ駄目なんですけど、それはいいんですけど、そういうふうな議論をちょっとしていくことも一案かなということ提案をさせていただきました。

パワーポイントはこれでおしまいなんですけども、というようなことでとりあえずですね、もしちょっとこのテーマで話しづらくなっていうのがあったら、また修正かけますので、とりあえず次回、こんな形でやらせてもらえるとありがたいなというふうに思っています。

もう一度作業シートの方にちょっと戻っていますが、こういうことでちょっと皆さんとグループ協議をしていきたいというふうに思います。いいでしょうか？

【 意見するものなし 】

(委員長)

はい。ありがとうございます。大変、あの無言だと心配になりますが、ぜひ私も頑張っていきたいと思います。

それからこれはもう全く私の個人的な見解なんですけど、これから先の時代を考えたときに、実は私今、県立大学で子ども学科の学生の講義を持っていてですね、今日、いや昨日か。講義あったときにAIによる声の悪用、これを片側で指導した後に、アナログで紙芝居をやりました。昔ながらのですね、箱の中で紙芝居をやりました。1枚の抜き方、さっと抜くのか、半分抜くのか、ゆっくり抜くのか、それから間をもつのか、みたいなものですね。そういったような、やっぱり技術があるわけですね。

でもそういうアナログとデジタルを使い分けながらも、たとえ0歳児であり5歳児であったとしても、1個の人格を持った人間なんで、これから先、私達が考えなきゃいけないのは、幼保こども園・小学校・中学校の実を言うと共同連携が重要になってくるんじゃないかなというのはすごく感じているところです。

というようなことで、勝手に意見を言わせてもらいました。ありがとうございます。

次回、ちょっとこれをまた資料化してきますのでご協力ください。駄目だったらまたボツにして一からやり直します。はい、よろしくお願いします。

はい、それじゃあ今日の協議も、すいません、またこんな時間になって申し訳ありません。

はい。それでは事務局の方に一旦お返しします。ありがとうございました。

(事務局)

遠藤先生、また委員の皆様、大変ありがとうございました。

それでは、次第の5その他に移ります。

事務局からの事務連絡となります。先ほど委員長からお話があったように、次回第3回委員会は7月29日月曜日、本日と同じ18時30分開会を予定しております、こちらの大会議室にて開催させていただきたいと考えております。第3回会議の委員会の開催の詳細につきましては、また別途ご案内いたしますが、ご都合の調整等よろしくお願いいたします。

いよいよ本格的な討議に入っていくというところでございますので、できる限りご参加の方ご協力いただきますようお願いいたします。

本日ご用意いたしましたプログラムにつきましては以上を持ちまして終了いたし

ました。皆様方から何かございますでしょうか。

【 特に声なし 】

(事務局)

ないようですので、それでは、以上をもちまして第2回見附市立学校配置等検討委員会を閉会いたします。誠にありがとうございました。

— 午後8時54分 終了 —